

登山月報



第1回スピードジャパンカップ報告	2
第32回リードジャパンカップ報告	3
中国地区山岳連盟(協会)連絡協議会が開催	4
第125回 Mountain World	5
新連載 『日山協と私』	6
平成30年度氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告	8
平成30年度第4回理事会報告	9
平成31(2019)年度事業計画・収支予算	9
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	13

第1回スピードジャパンカップ報告

期日 2019年2月10日(日)
会場 モリパークアウトドアヴィレッジ・スピード
 クライミングウォール(東京都昭島市)
選手 63人(男子39人、女子24人)

1月に開催されたボルダリングに続き、第1回となるスピードジャパンカップが開催された。前日からの降雪により朝の開場時は5cm程度の積雪があったが、競技中は好天に恵まれ無事に開催、初代王者が生まれた。

【女子】

24人の選手が出場した。決勝へは野中、伊藤、野口といった他種目でも活躍をみせる選手が着実な成績で駒を進めた。

ビッグファイナルは野中、伊藤の組み合わせ。野中が9.388秒、伊藤が9.658秒と僅か0.3秒たらずの差で野中が初代王者に輝いた。ボルダリングジャパンカップ優勝に引き続きジャパンカップ2冠に輝いた。

【男子】

予選は39人が出場し、6.935秒をマークした緒方を筆頭に、昨年のコンバインドジャパンカップで優勝した榎崎智亜、スピード種目を専門に取り組む池田が続く形となった。

決勝へは16人が進みトーナメント形式で競う。ビッグファイナルは池田、藤井の組み合わせとなり、

この日一番の盛り上がり。結果は藤井がスタート直後にスリップし失速、安定した登りを見せた池田が勝利した。



第1回スピードジャパンカップ 成績			
男子		女子	
1	池田 雄大	1	野中 生萌
2	藤井 快	2	伊藤ふたば
3	抜井 亮瑛	3	野口 啓代
4	榎崎 智亜	4	中村 真緒

【運営】

第1回大会であると同時にJMSCAが主催する初のスピード種目の大会だったが、これまでボルダリングワールドカップやボルダリングジャパンカップなど



の運営経験が豊富なメンバーで臨んだため、準備・設営面で大きな混乱は見られなかった。

ただし、当日は低温によるタイミングシステム(計時システム)の不調がみられ、直前まで調整に追われた。急遽、家庭用ヒーターをウォール最上部へ持ち込み機器類を温めることで対応したが、それでも予選時は不調にみまわれ競技が中断する場面があった。屋外ゆえのトラブルだが、タイム計測はスピード種目の根幹であり今後は機器の改良を期待するとともに不足の事態への対応も検討が必要である。

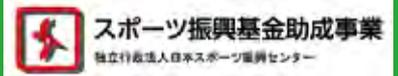
なお今大会にあわせ「スピード日本記録」の認定が始まった。日本記録、ジュニア(U20)、ユースA(U18)、ユースB(U16)の4カテゴリ、男女あわせて計8タイムが初代記録として認定された。

最後になりましたが、開催にあたり各方面でご支援・ご尽力いただきました各位に厚く御礼申し上げます。

公認スピード日本記録		
2019年2月13日		
男子		
カテゴリ	記録	氏名
日本記録	6.920	藤井 快
ジュニア(U20)日本記録	7.299	土肥 圭太
ユースA(U18)日本記録	7.211	抜井 亮瑛
ユースB(U16)日本記録	12.225	上村 悠樹
女子		
カテゴリ	記録	氏名
日本記録	9.388	野中 生萌
ジュニア(U20)日本記録	11.342	中村 真緒
ユースA(U18)日本記録	9.658	伊藤ふたば
ユースB(U16)日本記録	12.973	鈴木可菜美

(実行委員会・サービスマネージャー 百瀬恭平)

第32回リードジャパンカップ報告



第32回スポーツクライミングリードジャパンカップが3月2日(土)から3月3日(日)の2日間にかけて印西市松山下公園総合体育館で開催された。

【大会データ】

出場選手数 男子 67名 女子 46名

観戦者数 3/2 (予選) 458名

3/3 (準決・決勝) 656名

Route setter 松島暁人、岡野 寛、徳永潤一、濱田健介

Route grade 決勝 (男子) 5.13 d (女子) 5.13 c

(女子決勝)

一手一手が遠くダイナミックさとパワーが要求されるルートを制したのは野口啓代選手。森秋彩選手は野口選手と同高度だったが、惜しくもカウントバックで連覇とはならなかった。



(男子決勝)

黄色のボリュームが続き、ダブルダイノも必要となる蛇行する持久力且つパワーを要するルートをクレーバーな登りで完登した藤井 快選手が優勝。榎崎智亜選手はテンポ良く登ったが、ゴール取りで失敗し2位となった。



【大会名称について】

昨年度の「リード日本選手権2018加須」大会に続く



2019年の大会として行われたこの大会だが、リードの大会は国内チャンピオンを決める「日本選手権」、国体のリハーサル大会としての「ジャパンカップ」があり、少々紛らわしく、今後の国内におけるリード日本チャンピオンを決める大会にこの2つを統合し、回数は2017年に愛媛県の西条市で行われた第31回目を継承する形で、「第32回リードジャパンカップ」とした。これによって国内のそれぞれのチャンピオンを決める大会が「ボルダリング」「スピード」「コンバインド」と共に「ジャパンカップ」と統一され、分かりやすくなったのではないだろうか。チャンピオンを決める大会が整理され、それらに繋がる「予選」として次年度構想されている全国各地で行われる予選会(ジャパンツアー)についても、「選手」や「保護者」また「見る側」が混乱しないように期待したいと思う。

【運営体制に関して】

会場はJMSCAの協会旗をはじめ、主管となる千葉県、そして東京と埼玉が運営を協力する形となったため、三県の岳連旗も掲げられた。これは、IFSC BWC八王子大会から続く運営体制であり、今後行われるIFSCワールドチャンピオンシップ(世界選手権)や直接的ではないものの東京2020オリンピックの各県にまたがって支援を要請する運営体制のブラッシュアップにつながったと思う。

審判以外のスタッフ(ビレイヤー・選手管理・会場管理等)は他県と交流する機会もあまりない。見慣れた顔ぶれで出来る国体の県予選以上の、コミュニケーション力や調整力も3都県の合同運営となると、スタッフ個々に必要となり、今後より一層の運営チームワークも必要となると思う。

【観ていただく為の演出】

スポーツクライミングは、オリンピック・世界選手権など今後の大きな国際大会に向けてメディア等の露出も増え、更に注目度も上がる。観て楽しく分かりやすい演出のために、会場ではスクリーンに「オンラインオブザベーション」を映し出し、分かりにくいルートへのアクセスを3Dで表現したり、動画配信ではYouTubeに「JMSCA Competition TV」を設け、平易な解説でチャンネル登録者は1万人に迫る勢いとなってきた。

https://www.youtube.com/channel/UCnjTK_woY8DUgXeVQLgug9A

【2019という年度】

急速という言葉は適切ではないかもしれないが、限りのある期間と、スポーツクライミングの将来の為の両面で、競技会のヒエラルキーの整備を含め様々な競技会が行われる年度となる。また演出等を含めたオーディエンスに受け入れやすい環境を整える為、様々な演出の提案もされるだろう。見合う「運営力」を養うために我々もスキルアップを図らなければいけない。どうか皆さまのご協力とご理解をお願いしたい。

(競技委員 横内鉄郎)



3Dに関しては下記のURLで公開しています。是非見てみて下さい。

<https://onlineobservation.com/s/LJC2019/?fbclid=IwAR2ITZW7L4ot0t8FD7wCBAhQ78ZOAFcTEN3xvtb8UFGAM1ri4J-1PIYL5ns>



第32回リードジャパンカップ 成績

男 子			女 子		
1	藤井 快	TEAM au	1	野口 啓代	TEAM au
2	榑崎 智亜	TEAM au	2	森 秋彩	つくば市立手代木中学校
3	清水 裕登	愛媛県山岳連盟	3	平野 夏海	私立国土館高等学校
4	榑崎 明智	TEAM au	4	田嶋あいか	慶應義塾大学
5	杉本 怜	マイナビ	5	中川 瑠	大阪府山岳連盟
6	是永敬一郎	埼玉県山岳連盟	6	谷井 菜月	橿原市立光陽中学校
7	西田 秀聖	私立天理高等学校	7	野中 生萌	XFLAG
8	田中 修太	新潟県立直江津中等教育学校	8	小池 はな	埼玉県山岳連盟

中国地区山岳連盟(協会)連絡協議会が開催

3月9日～10日、島根県松江市玉造温泉で中国地区山岳連盟(協会)の連絡協議会が開催された。中国地区では5県中4県が「山岳・スポーツクライミング連盟(協会)」に名称を変更している。

JMSCAの現状と課題、国体中国ブロック大会など中国地区における各種大会・研修会に関わる協議、各岳連(協会)からの報告・依頼、法人化への対応、情報交換など2日間に亘り熱心に議論された。

中国地区山岳連盟(協会)の益々の発展と活躍が期待される。
(副会長 伊藤克己)



第125回 Mountain World

ジャヌー東壁 18日間のサバイナル

池田常道

カンチェンジュンガ山群のジャヌー(クンバカルナ、7710 m)は困難なピークとして知られている。リオネル・トレイ率いる1962年のフランス隊によって初登頂されはしたが、彼らは59年に一度失敗した末の再挙だった。こんにちまで、ジャヌーに挑んだ登山隊は52を数え、そのうち17隊(32.7%)が登頂に成功、65人を頂上に送っている。

フランス隊がたどった南稜に続いて、北壁が76年山学同志会隊(小西政継隊長)によって登られ、79年チェコスロヴァキア隊(イワン・ガルフィ隊長)の南西支稜、2004年ロシア隊(アレクサンドル・オディンツォフ隊長)の北壁ダイレクト、07年ババノフとコファノフ(ロシア)の北西バットレス、とバリエーション・ルートが拓かれてきたが、ヤルン氷河に面した東壁だけは未踏のまま残されてきた。

標高差2000 mを誇る東壁には、スロヴェニアのクライマーたちが過去3回挑んでいる。まず1991年、カンチェンジュンガ主峰に挑んだチームのなかからヴァニャ・フルランとポーヤン・ポチカルがアルパインスタイルで攻撃、3日間で7100 mに達した。93年にはドゥシャン・デベラク、アウグスト・ロブニク、トマジ・ジェロヴニクが6800 mで断念。2004年にはトマジ・フマルが単独で挑戦したものの、7000 m付近に達しただけに終わった。これらは、いずれも東壁右寄りをついてジャヌー東峰(7468 m)に向かったもので、直接頂上に通じるラインに挑んだ隊はなかった。

去る3月、ロシアのディミトリー・ゴロフチェンコとセルゲイ・ニロフは、ポーランドのマルチン・トマシェフスキと3人でメインウォールから頂上を狙った。ゴロフチェンコとニロフは2013年にカラコルムのムスターグ・タワー(7283 m)北東側稜、17年にはガルワールのトレイ・サガール(6904 m)北壁を登ってピオレドールを受賞していた。トマシェフスキはこの冬、ナンガ・パルバット(8126 m)で亡くなったトム・バラード(英)と組んでドロミテを中心に登攀、アイガー北壁でも北ピラーに新ルート「知恵の七柱」を拓いていた。

3人はまだ冬のコンディションの下BC(4700 m)

入りしたが、途中ポーター5人が雪盲になって脱落、BCでは発電機に誤った燃料を注入して一時電源を失うなどアクシデントが続いた。ロシアの二人は高所順応を節約して攻撃を急いだが、トマシェフスキは順応不足を理由にBCに留まることにした。親友のバラードを失った精神的ショックもあったかもしれない。バラードとは、インドへ出かける計画もあった。

3月16日、ロシアの二人は攻撃に移り、1日目は5520 mでビバークした。18日には大雪が降り、風が強まるという予報ももたらされた。この時点で予定していたラインを外し、フランス・ルート(南稜)に向けて進路を採ることにした。19日から24日は1日あたり100から200 mのペースで登るが、26日の大雪の後、南稜へ向けて進み、27日には数ピッチを稼いだ。

しかし翌日、南稜に合流した時点で登頂は諦め、頂上まで400 mを残す7310 m地点からフランス・ルートを下ることに決めた。29日には6995 mまで下り、翌日には好天に恵まれて「ダンテルの頭」(6449 m)まで来た。撮影担当としてBCに詰めていたエリザ・クバルスカは、複雑な下部ルート(南稜)の情報を二人に伝える一方、ヤマタリ氷河に移動して5000 m地点まで登り、無事に下りてきた二人を迎えた。登攀開始以来18日間のサバイバルだった。



ジャヌー東壁のヘッドウォール。オレンジ色の線が予定した直登ルート、赤線は南稜への脱出路を示す。(Russianclimb.comによる)



新連載 ～創立60周年に向けて～ (11)

『日山協と私』

JMSCA顧問 坂口 三郎

私が岳連活動に協力するようになったのは、昭和28年頃からである。第9回北海道国体終了後の関東地区岳連会議の席で、東京の高橋定昌さん、神奈川の尾関廣さんから「栃木はどうして、7月24日の旭川・興隆寺での全日本山岳連盟の結成式に出席しなかったのか。」と言われて驚いた。調査してみると、この会の通知は道岳連から各都府県の岳連宛に発送したらしい。当時、栃木岳連の事務局は、県庁の観光課内にあり、事務処理は県職員が片手間にやり、会長は観光課長の千家哲麿氏であった。国体の監督は星野近(日光山岳会)、隊員は4名であった。ここで千家哲麿氏について説明する。彼は出雲大社の親族で、父親は男爵である。東京大学林学科の卒業であるが、在学中はスキー山岳部に在籍、日本山岳会に入会している。昭和14年、厚生省から栃木県職員になり、日光国立公園行政を担当した。昭和21年、全国に先駆けて観光課を発足させ、課長を9年間務めた。昭和23年には栃木県山岳連盟を発足させ、会長になる。スキー連盟では理事長になっている。彼は、人格円満で豊かな学識を持ち、先見性のある感覚を持ち、実行力のある人で、誰からも好まれる人物であった。退官後は初代の国立公園協会の会長を務めている。おそらく日本山岳会の動きを汲んで、星野監督に結成式に出ないよう指示したものと私は判断した。県の意向もあり、千家さんの転勤を機に役員改選、事務所移転を行い、理事長・鈴木林治、事務所は同氏宅となり、全岳連の発展、充実に協力することとした。



関東地区岳連理事会 (鬼怒川温泉)

昭和30年11月、鬼怒川温泉・晃龍閣で関東岳連理事会を開催。東京、神奈川、千葉、茨城、群馬から20数名が集まり、第1回関東地区登山大会を昭和31年5月、日光白根山で行うことなどを取り決めた。

昭和30年5月15日、全日本山岳連盟の発会式が神宮外苑の日本青年館において開催された。会長には日本山岳会の設立発起人の一人である武田久吉氏が推挙された。第10回国体が昭和30年10月、今までの地区別ではなく神奈川県単独で実施され、武田会長は、大会名誉会長として参加された。開会式前夜、子安海岸の旅館に泊まったが、窓の外は岸壁になっており、熊本の北田正三氏と同室になった。彼は魅力的な人物で、カナダ、アメリカ山岳会員とか言っていた。向こうの会員は、鉄道、山小舎の割引制度があり、日本でもこうしてほしい等と話していたのが忘れられない。彼は、阿蘇に住んでおり、熊本国体のコース整備のため単独で根子岳に入り、転落死された。惜しい人物を失ったものである。開会式の前に伊勢山皇大神宮で開始式を行い、開会式の三ツ沢競技場に向かった。技術委員長は渡辺公平氏であった。

第15回熊本国体では栃木の監督であった。同コースに岩手監督の矢羽々文一郎がいた。岩手は優秀チー



尾関廣氏告別式 (昭和50年9月11日)

ムの栄に浴したが、今でも交遊が続いている。

熊本国体は、日本山岳協会として初めての国体であり、武田会長は大会会長、技術委員長は星野重さんであった。国体終了後、家内と子供を連れて鹿児島島の墓参りに3日許り費やし、鹿児島駅で尾関廣全岳連会長とお会いし、横浜まで同行した。尾関さんは国体終了後、鹿児島島の赤星昌会長と鹿児島島の旅を楽しんだのであろう。永年の念願が叶って、熊本国体を主催し、成功裡に終わり、得意の絶頂にあったと思う。尾関さんは若き日、海軍兵学校を受験したことがあるそうだ。又お仕事が海運業で、私の海軍の先輩、友人を多く知っており、山以外でも話が弾んだ。

第16回秋田国体では、AコースのC Lをやった。大会中台風24号の直撃に遭い、荒天対策を実施した。宿舎の後生掛温泉に早く着いたので、ラジオの気象通報により、天気図を書いてもらった。天気図用紙は私が用意していた。兵学校では航海科の授業で1教程2時間、後は自学自習で修得したものだ。昭和36年7月の日山協指導員研修会(蒲田温泉)で講師の高橋定昌さんから天気図を書かされたことがあった。又中学2年の社会科の授業で天気図を学ぶことも聞いていた。

技術委員長は、羽賀正太郎さんだったが、講評の中で天気図、荒天対策、秋田の補導員の優秀な能力等を称賛してもらった。秋田国体以降天気図作成が必須項目となっていく。

私は、1995(平成7)年から2001(平成13)年まで日山協会長の任にあった。最も印象にあるのがネパールの国際山岳博物館(I. M. M.)のことである。詳細については、日山協50年誌に八木原現会長が記述しているので省略するが、1995年10月、ダワ・ノルブ・シェルパ、ネパール山岳協会(N. M. A.)会長が日山協に来て、I. M. M. の建設の援助を要請され、村木潤次郎J A C会長とともに聞いた。続いて1996年3月にもダワさんが来日して要請があり、1997年4月、大阪の城隆嗣さん、大西保さん、坂口が各々夫人同伴で私的な旅行でネパールを訪れた時もカトマンズのシャングリラホテルで、ポカラでは、建設現場を見学し、要請された。ダワさんの熱意のこもった姿に私も真剣に考えるようになり、ネパール情勢に詳しい大西保さん、コスモトレックの天津昭宣、二三子夫妻の意見も聞き、私の方針は決まった。1997年7月に6団体(日山協、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤ協会、H A T-J、日本ネパール協会)で協議開始。9月26日に支援を決定する。残念なことにダワ会長は



神奈川国体・伊勢山皇太神宮(昭和30年10月)
武田名誉会長と高波吾策氏

10月28日、肺ガンのため亡くなられた。日本からの募金は約2500万円に達し、2004年2月5日、ネパールのタパ首相、神長駐ネ大使ら内外約500人が参加して落成、開館式典が盛大に挙行された。その後の運営も順調と聞いている。

第2回コンバインドジャパンカップ 観戦チケット販売について

第2回コンバインドジャパンカップの観戦チケットを4月15日(月)より各種プレイガイドで発売いたします。なお、観戦チケットの販売は、5月26日(日)の決勝のみです。25日(土)の予選は無料です。

記

- 大会名** 第2回コンバインドジャパンカップ
開催日 5月25日(土) 男女予選9:00~(予定)
5月26日(日) 男女決勝9:00~(予定)
会場 石鎚クライミングパークSAIJO
(愛媛県西条市)
料金 ※5月25日(土)は無料
5月26日(日)のみ
【前売券】大人2,000円、高校生以下1,000円
【当日券】大人2,500円、高校生以下1,500円
発売日 4月15日(月) 10:00~前日23:59まで

平成30年度氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成31年2月16日(土)～17日(日)に鳥取県大山において氷雪技術研修会及び主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が大山自然歴史館及び大山南光河原にて開催された。

今回は研修5名、A級主任検定4名、上級指導員養成講習2名、講師5名、鳥取県スタッフ4名の計20名での開催となった。

今年の大山は、積雪が例年より少ない状況でしたが、講習には問題なく、また、両日ともに小雪は降るものの晴れ間も見え、参加者は少なめではあったが、充実した講習が行われたものと思います。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

受講生 感想

『氷雪技術研修会』に参加して

徳島県山岳連盟 平井 小夜子

一年の中でも一番雪が多いだろうとされるこの時期、2月16日～17日に鳥取県の「大山」で氷雪技術研修が開催されるという事で、今回参加させていただきました。これまで多少体力に自信があるというだけで、山に入っていた自分の無力さをこの2、3年で十分思い知らされる事があり、「やはりこのままではいけない!」と、自分の為そしてこれから人を指導していく為にも、知識や技術を学べる場所に積極的に参加したいと思ったからです。

初日、研修施設において開会式より机上講習と実技講習を行い、その後野外においての実技講習となりました。今回の課題は、特にスタンディング・アックス・ビレイ、他滑落停止や耐風姿勢などを教えていただき



研修模様



参加者集合写真

ました。机上で理解したと思っけていても、実際やってみると焦ってしまっけてなかなか思うようにいかない。そこに、講師の鏗のような大声がグサリグサリと突き刺さりました。

「そんなんやっけてたら、もう死んでしまっけてー!」本当にその通りです! だからこそ来たんだと言っけて聞かせ、何度も何度も繰り返しまっけて。そして、出来た時。講師の顔を見ると、ニコッと笑っけてくれました。ここ数年、辛い思いをして何かに真剣に取り組みむという事を完全に忘れていた事に気が付きました。今回の講習から教っけてもらった事、知識や技術そして一番大切な事は、「命を守る」という事についての、個々の真剣な取り組み姿勢を教っけていただいた気がしまっけて。

後、ロープの事、カラビナの事、質問も沢山あり時間いっぱい教っけていただきました。本当に私にとって、充実した2日間でした。これからは、「心・技・体」をバランスよく磨いて行けたらと思っけていました。

JMSCAの研修班講師のお2人、本当にお世話になりました。そして、JMSCAの役員の方々、お世話役の鳥取県山岳・スポーツクライミング協会の方々、参加された皆さんありがとうございました。

創業50周年記念特別企画

カナディアンロッキー最高峰Mt.ロブソンと
秀峰Mt.アシニボイン・ヘリ・キャンプ 12日間

発着地

東京

出発日

7/24(水)

旅行代金

648,000円

※燃油サーチャージ(2019年3月20日現在:目安約28,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボンド保証会員



ALPINE ツア サービス 株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

平成30年度第4回理事会報告

平成31年3月2日(土)に東京渋谷のTKP渋谷カンファレンスセンターで理事会(第4回)が開催され、平成31(2019)年度の事業計画及び収支予算が可決成立した。理事会には理事24名、監事3名が出席。

1. 議 題

第1号議案 平成31年度事業計画案について

質疑応答の後、承認を諮り、一部文言訂正の上、賛成24、反対0で承認された。

第2号議案 平成31年度収支予算案について

議案説明の後、予算の不確定要素や予算の執行管理、世界選手権の予算などの質疑応答があった。質疑応答の後、議長が予算委員会設置の手續きのな瑕疵はあったが、内容を精査して、問題がないので承認を諮りたいとし、賛成24、反対0にて承認された。

第3号議案 諸規程の改定について

資料に基づいて各規程の改定案について説明し、質疑応答の後、規程ごとに議長が採決を諮った。

①「加盟団体規程」：賛成23、反対1で承認された。

②「倫理規程」：賛成24、反対0で承認された。

③「裁定審査会規程」：賛成24、反対0で承認された。

④「処分規程」：賛成24、反対0で承認された。

⑤「不服審査規程」：賛成24、反対0で承認された。

⑥「CLUB JMSCA ITADAKIに関する規程」

第2条第4項の修正と第7項の削除が追加されて承認が諮られ、賛成24、反対0で承認された。

⑦「競技審判員規程」：賛成24、反対0で承認された。

⑧「公認ルートセッター規程」：賛成24、反対0で承認された。

⑨「総会規程」：賛成24、反対0で承認された。

第4号議案 次期役員候補者推薦について

役員選考委員会の選考経過について説明があり、質疑応答の後、答申された理事候補者23名と監事候補者2名の推薦承認が諮られ、賛成24、反対0で承認。

第5号議案 参与の推薦について

宮城県山岳連盟推薦の吉田弘司氏の参与が承認された。

2. 報 告

報告1号 平成30年度事業経過報告について

報告2号 平成30年度収支決算見直しについて

報告3号 平成30年度山岳共済会事業報告及び収支決算見直しについて

報告4号 平成31年度山岳共済会事業計画及び収支予算について

報告5号 選手のBMIについて

報告6号 SCジャパンツアーについて

3. その他

(1)業務執行理事・(11月～2月)職務執行報告

各業務執行理事が資料に基づき職務執行報告を行った。

(2)平成30年度全国理事長会議報告

小野寺常務理事が概略報告を行った。

平成31(2019)年度事業計画

2019年4月1日～2020年3月31日

1. 安全登山普及事業

(1)青少年育成事業

ア)高体連登山部関連

①第63回全国高等学校登山大会の開催

8/2(金)～6(火) 宮崎県高千穂町 祖母山系

②第10回全国高等学校選抜スポーツクライミング

選手権大会の開催 12/21(土)～22(日) 埼玉県加須市市民体育館

イ)ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催(委託実施)

②「ジュニア普及情報交換会」開催

2020年2/15(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター

③「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2019」

8月 国立立山青少年自然の家、立山周辺

④「みんな集まれ!なすかし雪遊び隊2020」

2020年3月 国立那須甲子青少年自然の家

(2)登山に関する文化・学術の振興事業

(3)安全登山の啓発事業

ア)安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施

①東部地区(北海道、岐登牛山・旭岳周辺)

9/14(土)～16(月)

②西部地区(大阪、神戸セミナーハウス周辺)

10/12(土)～14(月)

イ)安全登山事業(国立登山研修所と共催)

①高等学校等登山指導者夏山研修会

8/7(水)～9(金) 国立登山研修所及び周辺山域

②上級登山指導者リスクマネジメント研修会

2020年2月22日(土)～23日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

③安全登山サテライトセミナー

東京会場：12/14(土)～15(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

滋賀会場：7/13(土)～14(日) 大津市民会館

福岡会場：11/16(土)～17(日) 九州大学椎木講堂

④積雪期登山基礎講習会

2020年2/7(金)～9(日) 国立登山研修所及び周辺山域

ウ)第58回全日本登山大会の開催

9/28(土)～30(月) 岐阜県 高山市、下呂市、乗鞍岳、西穂高岳独標、御嶽山、福地山、五色ヶ原ほか

<遭対委員会>

ア) 山岳レスキュー講習会

① 西部地区(富山県・国立登山研修所)

9 / 6(金)～8(日)

② 東部地区(群馬県・土合山の家)

1 / 24(金)～26(日)

イ) 研修及び研究会

① 遭対常任研修会

8 / 24(土)～25(日)、2020年3 / 28(土)～29(日)

② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議

6 / 29(土)～30(日)

ウ) 平成2019年度全国山岳遭難対策協議会の共催

(スポーツ庁他) 7 / 5(金) 文部科学省

<国際委員会>

ア) 国際委員全体会議兼第58回海外登山技術研究会

6 / 22(土)～23(日) 目黒区東山大橋会館

イ) 海外登山懇談会

11月 国立オリンピック記念青少年総合センター

ウ) 支援事業 ウィンター・クライマーズ・ミート

(国内)の支援 2020年2月

(4) 登山指導者育成事業(指導委員会)

ア) 指導員研修会

① 氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会) 4 / 27(土)～28(日) 富士山

② 全国指導委員長会議

6 / 1(土)～2(日) 東京海員会館

③ 登攀技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会)

10 / 26(土)～27(日) (一社)大阪府山岳連盟

④ 氷雪技術常任委員研修会

2020年3月 群馬県・谷川岳

⑤ 氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会) 2020年2 / 15(土)～16(日) 大山

⑥ 公認山岳指導員及び上級指導員、主任検定員の養成

⑦ 指導・遭対委合同研修会 8 / 17(土)～18(日) 2020

年3月 神奈川県山岳スポーツセンター

イ) 主任検定員養成講習会(山岳及びSC主任)

ウ) U I A A 認定のための査察(U I A A 担当者来

日) 8 / 12(月)～21(水) 那須

2. スポーツクライミング事業

全国競技委員長会議の開催 4 / 7(日)

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

① FISE WORLD SERIES Hiroshima 2019

4 / 19(金)～21(日) 広島市・旧市民球場跡地

② ボルダリングユース日本選手権鳥取大会2019

5 / 18(土)～19(日) 鳥取県倉吉体育文化会館

③ 第2回コンバインドジャパンカップ

5 / 25(土)～26(日) 愛媛県西条市石鎚クライミングパーク SAIJO

④ I F S C 世界選手権2019 (強化事業の項参照)

8 / 10(土)～21(水) エスフォルタアリーナ八王子

⑥ 第22回 J O C ジュニアオリンピックカップ

9 / 14(土)～16(日) 富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター

⑦ I F S C リードワールドカップ印西大会2019

10 / 26(土)～27(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

⑧ 第10回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 12 / 21(土)～22(日) 埼玉県加須市民体育館

⑨ 第15回ボルダリングジャパンカップ

2020年2 / 8(土)～9(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

⑩ 第2回スピードジャパンカップ

2020年2 / 22(土)～23(日) 昭島市・モリパークアウトドアヴィレッジ

⑪ 第33回リードジャパンカップ2020

2020年3 / 7(土)～8(日) 埼玉県加須市民体育館

⑫ オリンピックテストイベント

2020年3 / 7(土)～9(日) 青海アーバンスポーツパーク

⑬ 第8回リードユース日本選手権印西大会2019

2020年3 / 21(土)～23(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

(2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

五輪競技種目化に沿った国体山岳競技の検討

ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

① 4 / 20(土)～21(日) 第74回茨城国体第1回基準会議、茨城県鉾田町

② 6 / 7(金)～9(日) 第74回茨城国体第2回基準会議、茨城県鉾田町

③ 6 / 8(土)～9(日) 第74回茨城国体リハーサル大会(第6回日本学生スポーツクライミング(L / B)対抗選手権大会) 茨城県鉾田町総合公園

④ 9 / 8(日) 組合せ抽選会 場所、移転後に決定

⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)

⑥ 10 / 4(金)～6(日) 第74回茨城国体山岳競技、茨城県鉾田町総合公園

⑦ 第74回茨城国体以降の開催県への指導

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

① 代表(S . A . B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

- ① I F S CクライミングWC 4月～11月 世界各地
 - ② I F S C世界選手権(競技会運営事業の項参照)
8/10(土)～21(木) エスフォルタアリーナ八王子
 - ③ I F S C世界ユース選手権
8/22(木)～31(土) イタリア・アルコ
 - ④ A N O Cビーチゲームズ
10/10(木)～11(金) アメリカ・サンディアゴ
 - ⑤ オリンピック予選大会
11/28(木)～12/1(日) フランス・トゥールーズ
 - ⑥ アジア選手権
日程未定 ジャカルタ・バレンバン
 - ⑦ アジアユース選手権
10/3(木)～6(日) インド・プバネシュワール
11/14(木)～17(日) 中国・重慶
- エ) 代表選手強化合宿(海外・国内)

(4) 審判・ルートセッター事業

- ア) 審判・セッター会議の開催(2月)ルートセッター研修会
 - ・第1回: 9/17(火)～19(木)の後 富山県南砺市桜ヶ池cc
 - ・第2回: 12/23(月)～25(水) 埼玉県加須市民体育館
- イ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会

(5) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

- ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
- ① ドーピング検査実施(JADAに委託)
- ② ドーピング防止講習会開催
- ③ T U E(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援
- ④ A D A M S(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

(6) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会) AD・倫理研修会の開催(随時)

(7) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会) J O C主催委員会等出席

3. 登山関連・競技会運営事業

(1) 山岳スキー

- ① 第13回日本山岳スキー競技選手権大会(山岳スキー委員会)
2020イラン開催アジア選手権代表選考会、4/6(土)～7(日) 小谷村榎池高原スキー場

4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業(国際委員会)

- ア) 国際交流
 - ① BMC International Climbers Meetへの派遣(夏)
5/12(日)～19(日) 英国・ノース・ウエールズ
 - ② U I A Aアイスクライミング選手権派遣支援

(2) 医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

- ア) J S P O公認スポーツドクター養成支援
- イ) UIAA MedCom Meetingへの出席

ウ) J M S C Aが支援している医科学的諸事業

- ① 国際認定山岳医研修会
- ② 日本登山医学会認定山岳医研修会
- ③ N P O富士山測候所を活用する会
- ④ J S M M登山者検診ネットワーク
- ⑤ 日本登山医学会ファーストエイド講習会

5. 自然保護研究調査事業

(1) 山岳環境保全事業(自然保護委員会)

- ア) 研修及び研究会
 - ① 平成31年度自然保護委員総会(第43回山岳自然の集い) 2019年9月中旬 宮城県予定
 - ② 国際自然保護研修会
5/20(月)～24(金) 韓国済州島
 - ③ 第8回自然保護指導員研修会 2020年1/26(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

6. 共益事業

(1) 広報等

- ア) 『登山月報』毎月15日定期発行
第601号(4月号)～第612号(3月号)
- イ) H Pのタイムリーな更新作成
(<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

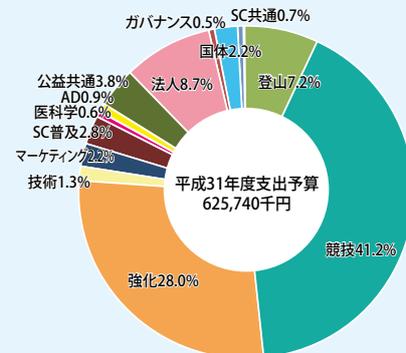
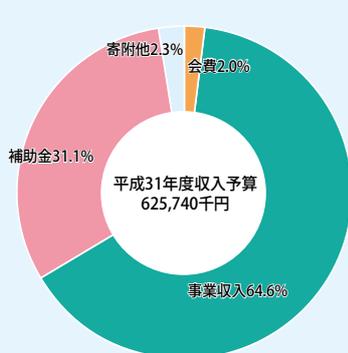
① 英文コーナーの新設

(2) 会議等

- ア) 総会 6/16(日)
- イ) 理事会 第1回5/26(日)、第2回6/16(日)(総会終了後)、第3回以降 年度始めに決定
- ウ) 全国理事長会議 2020年2/16(日)
- エ) 全国参与会 9/28(土) 岐阜県高山市(全日大会開催時)
- オ) 顧問・参与会 2020年1/11(土) 東京・アルカディア市ヶ谷(新春懇談会開催時)
- カ) 新春懇談会 2020年1/11(土) アルカディア市ヶ谷
- キ) (一財)全国山の日協議会(随時)
 - ・第4回「山の日」記念全国大会
8/10(土)～11(日) 山梨県甲府市
- ク) 国際会議
 - ① 国際山岳連盟(U I A A)理事会
5/2(木)～7(火) マルタ
 - ② 国際山岳連盟(U I A A)総会
11/2(土)～7(木) キプロス
 - ③ アジア山岳連盟(U A A A)理事会
6/1(土)～5(木) 台北
 - ④ アジア山岳連盟(U A A A)総会 10月 キルギス
 - ⑤ 国際スポーツクライミング連盟(I F S C)総会
3月キプロス
 - ⑥ 国際スキー連盟総会 6月
- ケ) 新事務所移転
5/28(火)、新宿区霞ヶ丘町4番2号へ引越し

科目	公益会計			公益計	法人会計	合計
	登山部	S C部	その他			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
受取会費	0	0	0	0	12,670,000	12,670,000
正会員受取会費	0	0	0	0	2,670,000	2,670,000
加盟分担金受取会費	0	0	0	0	8,000,000	8,000,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
事業収益	40,885,000	305,966,000	21,312,000	368,163,000	36,074,000	404,237,000
共済会委託事業収入	26,597,000	0	10,585,000	37,182,000	6,818,000	44,000,000
登録料	600,000	0	0	600,000	13,600,000	14,200,000
競技選手登録料	0	0	0	0	12,000,000	12,000,000
諸登録料	600,000	0	0	600,000	1,600,000	2,200,000
参加者負担金	13,484,000	46,338,000	0	59,822,000	1,300,000	61,122,000
講習会参加料	11,168,000	2,141,000	0	13,309,000	0	13,309,000
諸参加料	2,316,000	44,197,000	0	46,513,000	1,300,000	47,813,000
協賛金	50,000	177,992,000	7,727,000	185,769,000	13,356,000	199,125,000
広告料	0	0	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000
競技会収入	0	79,920,000	0	79,920,000	0	79,920,000
選手参加料	0	20,720,000	0	20,720,000	0	20,720,000
入場料	0	55,800,000	0	55,800,000	0	55,800,000
諸収入	0	3,400,000	0	3,400,000	0	3,400,000
その他事業収益	154,000	1,716,000	0	1,870,000	1,000,000	2,870,000
受取委託金	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
日本スポーツ振興センター委託金	2,000,000	0	0	2,000,000	0	2,000,000
受取補助金等	2,100,000	179,400,000	11,130,000	192,630,000	0	192,630,000
日本オリンピック委員会助成金	0	82,500,000	0	82,500,000	0	82,500,000
国民体育大会補助金	0	6,400,000	0	6,400,000	0	6,400,000
日本スポーツ協会助成金	400,000	0	0	400,000	0	400,000
日本スポーツ振興くじ助成金	1,700,000	62,000,000	11,130,000	74,830,000	0	74,830,000
日本スポーツ振興基金助成金	0	28,500,000	0	28,500,000	0	28,500,000
受取負担金	0	1,300,000	0	1,300,000	0	1,300,000
受取負担金等	0	1,300,000	0	1,300,000	0	1,300,000
受取寄付金等	0	7,400,000	0	7,400,000	5,000,000	12,400,000
受取寄付金	0	7,400,000	0	7,400,000	5,000,000	12,400,000
雑収益	0	0	0	0	503,000	503,000
受取利息	0	0	0	0	3,000	3,000
雑収入	0	0	0	0	500,000	500,000
経常収益計	44,985,000	494,066,000	32,442,000	571,493,000	54,247,000	625,740,000
(2) 経常費用						
事業費	44,985,000	494,066,000	31,552,000	570,603,000	0	570,603,000
給料手当	5,120,000	15,330,000	2,170,000	22,620,000	0	22,620,000
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0
会議費	1,483,000	4,260,000	90,000	5,833,000	0	5,833,000
旅費交通費	22,740,000	177,529,000	3,142,000	203,411,000	0	203,411,000
通信運搬費	138,000	2,779,000	1,350,000	4,267,000	0	4,267,000
消耗品費	980,000	2,910,000	30,000	3,920,000	0	3,920,000
印刷製本費	2,505,000	8,725,000	5,350,000	16,580,000	0	16,580,000
賃借・リース料	460,000	58,100,000	10,000	58,570,000	0	58,570,000
保険料	415,000	2,665,000	0	3,080,000	0	3,080,000
諸謝金	4,408,000	46,802,000	2,420,000	53,630,000	0	53,630,000
大会施設費用	280,000	55,560,000	0	55,840,000	0	55,840,000
支払負担金及び還付金	300,000	3,650,000	1,350,000	5,300,000	0	5,300,000
支払助成金及び事業交付金	200,000	2,160,000	0	2,360,000	0	2,360,000
委託費	3,490,000	73,790,000	15,580,000	92,860,000	0	92,860,000
現地サポート費用	0	14,785,000	0	14,785,000	0	14,785,000
大会記念品費	260,000	579,000	0	839,000	0	839,000
大会賞金	0	13,772,000	0	13,772,000	0	13,772,000
報奨・奨励金	1,700,000	5,000,000	0	6,700,000	0	6,700,000
雑費	506,000	5,670,000	60,000	6,236,000	0	6,236,000
管理費	0	0	890,000	890,000	54,247,000	55,137,000
役員報酬	0	0	0	0	200,000	200,000
給料手当	0	0	0	0	1,847,000	1,847,000
通勤費	0	0	0	0	1,700,000	1,700,000
退職給付費用	0	0	0	0	500,000	500,000
賞与引当金繰入	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
福利厚生費	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000
会議費	0	0	0	0	2,100,000	2,100,000
旅費交通費	0	0	0	0	7,000,000	7,000,000
通信運搬費	0	0	0	0	850,000	850,000
減価償却費	0	0	0	0	700,000	700,000
什器備品費	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
消耗品費	0	0	0	0	1,100,000	1,100,000
印刷製本費	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
光熱水料費	0	0	0	0	150,000	150,000
賃借・リース料	0	0	0	0	6,800,000	6,800,000
支払会費	0	0	0	0	2,300,000	2,300,000
保険料	0	0	0	0	800,000	800,000
租税公課	0	0	0	0	6,000,000	6,000,000
支払負担金及び還付金	0	0	0	0	3,800,000	3,800,000
交際費	0	0	0	0	500,000	500,000
支払報酬	0	0	0	0	1,100,000	1,100,000
手数料	0	0	0	0	1,800,000	1,800,000
IT関連	0	0	890,000	890,000	500,000	1,390,000
60周年事業引当金繰入	0	0	0	0	5,000,000	5,000,000
雑費	0	0	0	0	2,000,000	2,000,000
経常費用計	44,985,000	494,066,000	32,442,000	571,493,000	54,247,000	625,740,000
当期経常増減額	0	0	0	0	0	0

収入予算	
会費	12,670
事業収入	404,237
補助金	194,630
寄附他	14,203



単位：千円	
登山	44,985
競技	258,128
強化	175,230
技術	7,875
マーケティング	13,850
SC普及	17,836
医科学	3,629
AD	5,915
公益共通	23,585
法人	54,247
ガバナンス	2,942
国体	13,499
SC共通	4,200

日時 平成31年2月21日(木)
18時～22時

場所 岸記念体育会館4F特別会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山各副会長、尾形専務理事、小野寺、相良、合田、小日向、蛭田、町田各常務理事、内藤、中島、古屋各監事
17名中14名出席

同席者 多賀ガバナンス委員

欠席者 仙石・村岡・水島常務理事、

1. 議事

- (1)平成30年度2月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)
異議なく承認された。
- (2)国体山岳競技規程改定について
J S P Oの国体推進部と打合せた。I F S Cルールに合わせることにについてはできそうだが、大きなルール改正とみなされ、岳連や開催県及び開催団体協会の納得が必要で、47都道府県の合意形成のため5年程度かかる場合がある。
- (3)次期役員候補者推薦について
内藤役員候補者選考委員会委員長代行より答申書の説明があり、理事会に諮ることが承認された。
- (4)加盟団体の法人化推奨について
裁定審査会から某岳連の案件で答申書が提出された。協会としての管理監督責任についても言及され、会長と担当の蛭田常務理事が嚴重注意となった。総会マターの件については5/26日の理事会を経て6/16日の総会に提案することが承認された。
- (5)第4回理事会議事次第について
一部訂正の上、承認された。

- (6)平成31年度事業計画案について
一部文言追加訂正の上、理事会に諮ることが承認された。
- (7)平成31年度収支予算案について
一部文言の訂正の上、理事会に諮ることが承認された。
- (8)規程改定案について
①競技審判員規程、公認ルートセッター規程、倫理規程、処分規程、裁定審査会規程
合田常務理事が資料に基づいて提案を行った。一部文言訂正の上、理事会に諮る事が承認された。
②指導者規約規定(J M S C A公認夏山リーダー制度)
2019年度から夏山リーダー制度をスタートする通知文発送の提案があり、承認された。夏山リーダー関係規程・規約集については修正して再度提案することになった。
- (9)B M CのI C M派遣承認について
門野巧昂、草間麻子両氏の派遣が提案され、承認された。
- (10)山岳スキー世界選手権派遣承認について
星野和昭、藤川健、松澤幸靖、小寺教夫、國吉正紀、遠藤健太6選手の派遣が提案され、承認された。
- (11)第3次補正予算修正案について
相良常務理事が資料に基づいて説明され、異議なく承認された。

2. 報告

- (1)平成30年度事業経過報告について
- (2)平成30年度収支決算見直しについて
- (3)平成30年度山岳共済会事業報告及び収支決算見直しについて
- (4)平成31年度山岳共済会事業計画及び収支予算について
- (5)2024年パリオリンピックにおいて、パリ組織委員会がスポーツクライミングを開催都市枠種目としてI O Cに提案したとの報告があった。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- ア) スポーツクライミングコーチ専門科目
目修了認定者の承認
認定申請者：本田達(東京)を承認

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)後援名義承認、山岳検定協会
- (2)後援名義承認、日本山岳写真協会
- (3)後援名義承認、日本山岳ガイド協会
上記3件、異議なく承認された。

5. 専門委員会動静 (1月中旬～)

(1)国際委員会

- 2月12日(火) 出席6名委任4名
ア) 報告
・国内ウインタークライマーズミーティング開催(3/8～10、穂高滝谷)
・インド(IMF)の2019シーズン登山料値下げについて
・マウンテンスピリット2019(キルギス、レーニン峰、7/26～8/15)公募について
・国際トラッドロッククライミングフェスティバル(カザフスタン、アルマトイ、8/29～9/4)の公募について
イ) 協議事項
①第58回海外登山技術研究会(平成30年度国際委員ミーティング)について
2019年6/22(土)～23(日) 大橋会館201教室(84名)
②海外登山奨励金の宣伝、有効活用について

(2)山岳スキー委員会

- 1月22日(火) ネット会議 出席5名、委任2名
ア) 報告
①富山利賀大会報告
②2019年度予算について
③ポイント制度試行の経過について
④世界選手権、日本代表メンバーと出場種目について
・WCオーストリア大会(1/18 Spr. 20 Indi.) 小寺選手
・WCアンドラ(1/26 Indi. 27 Ver.) 小寺線選手
・WCフランス(2/2 Indi. 3 Spr.) 小寺選手
・WC中国(2/20 Indi. 21 Ver. 22 Spr.) 小寺選手、倉橋選手
1) 協議事項
①第13回日本選手権大会について
4/6(土)～7(日) 梅池高原スキー場
②その他
・遠藤委員より利賀大会に出た感想。

(3)山岳スキー委員会

- 2/13(水) ネット会議 出席5委任6名
ア) 協議事項
①第13回日本選手権大会について
4/6(土)～7(日) 梅池高原スキー場
進行状況、協賛依頼合計16社、A S M F各国に案内を流す(エントリーフィー免除、大会中の宿泊費優遇)

6. その他の重要事項

- (2月7日～2月20日)
(1)積雪期基礎講習会 2月9日(土)～11日(月) 於：国立登山研修所 仙石常務理事
(2)第1回スピードジャパンカップ
2月10日(日) 於：モリアウトドアヴィレッジ 八木原会長、亀山・平山副会長、

寄贈図書

雑誌	株山と溪谷社	ROCK & SNOW 083号
	Club alpino italiano	「Montagne360」marzo 2019
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.862
	日本万歩クラブ	「アルク」4・5月号
	日本ゲートボールクラブ	「ゲートボール Navi」2月号
	日本トレーニング指導者協会	JATI EXPRESS Vol.69
	健康・体力づくり事業財団	健康づくり No.491
	中華民国健行登山會	「中華登山」269
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第566号
	立山ルート緑化研究委員会	立山ルート緑化研究報告書
会報	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.354
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.530
	Corean Alpine Club	「山」2018年38号
	FECC	「VERTEX」282
	日本スポーツ芸術協会	Sport Art 2019
	日本スポーツ仲裁機構	第15回 スポーツ仲裁シンポジウム
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.232
	埼玉県体育協会	スポーツ埼玉 Sports Vol.283
	愛知県山岳連盟	愛知岳連ニュース 第432号
	長野県山岳協会	雪拉普崗日30周年記念合同登山報告書
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.96
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第341号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.712
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.488

編集後記

3月16～17日に神奈川の山岳スポーツセンターで登山部の新しい制度「夏山リーダー」講師研修会があり参加した。全国の岳連(協会)から33名の参加者、指導・遭対委員会からスタッフ19名、総勢62名により実施。期待する熱意は高いと感じた。制度の背景、取得までの流れ、講習内容(シラバス)など説明を受け概ね理解したが目的はリーダー養成である。喫緊の課題登山愛好者の減遭難を考えた時、受講条件と参加費が問題でベクトル合わせの工夫とアイデアが必要では。志は高く目線は低くの如くではないだろうか。

(広報担当 水島彰治)

表紙のこぼ

カンチェンジャオ(6,889m)の頂上は、大きなテール状の雪を付けたどっしりとした山容で、一見してそれと判る。東に延びる稜線上にはユレーカン(6,429m)、P.6,630峰、グルドンマール(6,715m)、サンラプー(6,224m)の衛星峰を連ね、さらにその東にドンキャ・ラが位置する。山名は、この山のあちこちに懸る大きな氷柱に由来していると云われる。即ちチベット語で「カン」は雪山、「チェン」は大きな、「ジャオ」は氷柱のような髭で、巨大なハンギング・グレッシャーが髭のように見える大きな雪山の意。

古くはシッキム・ヒマラヤのパイオニアである英国の植物学者J. D. フーカーが1849年にコンラ・ラから望見しているが、本格的な登山の試みは、1907年のA. M. ケラスからになる。ケラスが4度目のシッキム入りとなった1912年8月6日、ケラスは執念適ってシェルパのアンタルケーとニマの3人で初登頂に成功。

(写真撮影者・尾形好雄)

- 尾形専務理事、村岡常務理事
- (3)氷雪技術研修会 2月16日(出)～17日(回) 於:大山 野村副委員長
 - (4)登山普及情報交換会議 2月16日(出) 於: B um B ぶんぶく<東京スポーツ会館> 八木原会長、亀山・高橋・伊藤副会長、仙石・蛭田・水島常務理事、谷口理事
 - (5)全国理事長会議 2月17日(回) 於: フォーラムエイト514 八木原会長、副会長、専務理事、常務理事、各委員長
 - (6)全国山岳遭難対策協議会幹事会 2月19日(火) 於: スポーツ庁 町田常務理事
 - (7)日本スポーツ協会評議員連合会幹事会 2月20日(水) 於: 岸記念体育会館 尾形専務理事

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・道志村トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第601号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成31年4月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

山岳
 雑誌

岳人

がくじん
 山と人、時代をつなぐ「岳人」



【特集】海から山へ

～SEA TO SUMMIT～

5月号
 発売中

★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読なら12冊
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)
 1年間で815円
 1冊分無料!

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人
 ミニフレット
 (2個セット)

サイズ:9×10cm
 ※カラーはお選びいただけません



さらに はじめて
 お申し込みの方に



岳人ピンバッジ

提携施設「岳人の湯」で提示すると
 入浴料割引などの優待が受けられます。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ることを、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証をかざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 傷害死亡・後遺障害 | <input type="checkbox"/> 遭難捜索費用 |
| <input type="checkbox"/> 救援者費用 | <input type="checkbox"/> 傷害入院費用 |
| <input type="checkbox"/> 傷害通院費用 | <input type="checkbox"/> 傷害手術費用 |
| <input type="checkbox"/> 個人賠償責任 | |

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)